

第9回日本訪問歯科医学会 プログラム

「共に生きる 一機能する在宅医療連携」

■ 2009年11月8日(日)

■ THE GRAND HALL

◎ 特別講演

訪問歯科診療に役立つ認知症の知識

医療法人社団至高会 たかせクリニック 理事長 高瀬 義昌 氏

在宅療養支援歯科診療所と病院歯科の連携と将来

仙台往診クリニック 院長 川島 孝一郎 氏

◎ 会員発表

訪問歯科診療時におけるメディカルインタビューの応用

一本木歯科クリニック 守口 和 氏

訪問診療の昔と今

井澤歯科医院 井澤 政紀 氏

健康学習を生かした訪問歯科診療

ますだ歯科 榎田 康宏 氏

私たちが行っている口腔ケア

宇川歯科 羽山 やよい 氏

障害者施設での訪問歯科診療

キカワ歯科医院 木川 仁志 氏

筋萎縮性側索硬化症患者様に対する訪問歯科診療の取り組み

医療法人社団エステティックライン

熊本インプラント・矯正センター

パール歯科クリニック宇土 阿川 健太郎 氏

◎ 協力講演

Qアップトレーニングと口腔ケア

ケアパートナー株式会社 ケアパートナー柏 センター長 関 優美 氏

在宅歯科医療と医療連携

東京歯科大学社会歯科学研究室 石井 拓男 氏

◎ パネル講演

過去6年間における当医院での訪問歯科診療に関する統計

ひぐち歯科医院 樋口 泰史 氏

歯科治療における東洋医学の応用

こばやし歯科 小林 敦 氏

要介護者における口腔ケア後の口腔機能向上の数値的検証

一之瀬歯科医院 一之瀬 真弥 氏

訪問歯科診療に役立つ認知症の知識

医療法人社団至高会 たかせクリニック
理事長 高瀬 義昌

大変な数で認知症の患者が増えるといわれています。現在でも軽症をいれれば300万人前後2035年には500万人を超えるといわれています。当然、訪問歯科部門で出会う認知症の数はうなぎ登りとなっているでしょう。例えば、訪問診療にでかけたが本人の拒否が強く口を開けてもらえないため治療やケアができず、誤嚥性肺炎をおこしてしまったということは今まで経験されたことはなかったでしょうか？

とはいえ、多くの医師や看護師が認知症患者に興味をもって取り組んでいるとはいえないのが現状です。

誰にきいたらいいのかもわからないのが現状でしょう。

今回のセミナーでは実際の訪問診療の場面でのアプローチや、わかりやすい資料を使って認知症の診断・治療・ケアを概説し、ポイントをお話します。

● 略歴 高瀬 義昌（たかせ よしまさ）

1984年信州大学医学部卒業。麻酔科、小児科研修を経て、数々の民間病院に勤務後、2004年にたかせクリニックを開設、院長として就任。2007年に医療法人社団至高会を開設し、理事長として就任。

また、医学交流支援等を通じ政界・医療界に幅広いネットワークを持つ。

医療・介護・福祉の統合化と真の“かかりつけ医”を模索しながらスーパーコモディティーズである認知症の社会的ソリューションを中心に取り組んでいる。その様子を朝日新聞掲載、TVでオンエア。

現在、特定公益増進法人日米医学医療交流財団常務理事、用賀アーバンクリニック及び松原アーバンクリニック顧問、ITヘルスケア学会常任理事、東京医科大学霞ヶ浦病院精神神経科医局員（専攻生）を兼任している。

在宅療養支援歯科診療所と病院歯科の連携と将来

仙台往診クリニック
院長 川島 孝一郎

病院は入院日数削減・DPCの導入により今後ますます退院に拍車をかける。患者は治療が終了すれば速やかに居宅（自宅・介護施設等）に帰り生活を行う。病院の医師は、在宅医療の医師へ患者をより積極的に引き継ぐ傾向にある。その際に

- ① 嚥下力低下に起因する栄養低下に対して行う摂食嚥下歯科医療
- ② 身体の衰えによる呼吸低下に起因する肺炎防止のための口腔ケア

に示した、生き方に関与する歯科医療を引き継ぐ病院歯科医師の存在が欠かせない。

ところが、この役割を担うべき病院歯科の不在が、在宅での歯科医療を停滞させる一要因となっている。今後病院歯科は、診療所ではできない高度に専門的な歯科医療を担うとともに、在宅歯科医療への架け橋として入院中の医科の患者に対して積極的に歯科の立場から関与し、①②を有効な手段とするように医科に対して働きかけてゆくことが求められる。在宅医療の適応になる患者に関して病院歯科があるところでは、

- 1) 退院前に病院歯科が病室で診察を行い
- 2) 退院後に担当する在宅歯科を選定し
- 3) 在宅歯科に連絡
- 4) 退院前に「歯科の退院時共同指導」を行う
- 5) 在宅移行後も歯科診療を継続することが必要である。

在宅歯科医療の推進は、患者・家族にとってよりよい生活を送るために不可欠である。病院歯科・在宅歯科が連携して発展してゆくことが望ましい。

図1に示すように、歯科の領域は医科にも、看護にも、調剤にも、そして介護担当者にも幅広く適用される内容である。今後は、『歯科としての生き方の提示』が成されなければならないのであり、今や『総合力としての歯科医療』が求められているのである。

● 略歴 川島 孝一郎（かわしま こういちろう）

仙台往診クリニック院長

最終学歴：北里大学医学部卒業、東北大学医学部大学院卒業 医学博士

東北大学医学部臨床教授、東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター
研究教授

宮城県神経難病医療連絡協議会幹事

宮城県地域保健医療計画策定懇話会委員

厚生労働省「在宅療法の普及及び技術評価に係る調査」実施委員会委員

厚生労働省「終末期医療の決定プロセスのあり方に関する検討会」委員

厚生労働省「終末期医療に関する調査等検討会」委員

総務省・厚生労働省「遠隔医療の推進方策に関する懇談会」構成員

厚生労働省「終末期医療のあり方に関する懇談会」委員

等

■ 会員発表

訪問歯科診療時におけるメディカルインタビューの応用

一本木歯科クリニック
守口 和

訪問歯科におけるメディカルインタビューは、一般外来とちがって、患者さんとのコミュニケーションがとれにくいことが多い。しかし、患者さんを支える家族や看護師さん、ケアマネージャーさん、介護士さん等（いわゆるキーパーソン）との綿密な打合せにより、ラポール（信頼関係）を築き上げることができる。

その訪問歯科におけるメディカルインタビューを実施しながら、多くのことがわかってきた。その事は、一般外来でも、家族関係でも、職場においても、もっというと自分の人生を生きて行く上でも大変に役立つ事であるとわかった。

その事を発表したい。

●略歴 守口 和 （もりぐち やすし）

1999年 岩手医科大学歯学部卒

歯科医師国家試験合格

岩手医科大学歯科放射線科勤務

2000年 守口歯科クリニック勤務 副院長

2001年 米国 南カルフォルニア大学歯学部留学

2004年 メデントインスティテュートエグゼクティブインストラクター

一本木歯科クリニック勤務

2005年 スウェーデンイエテボリ大学顎顔面外科留学

E. A. O. (ヨーロッパインプラント学会正会員)

University of Southern California

School of Dentistry

Century Club in Japan Section

日本訪問歯科協会会員

日本訪問歯科協会認定 訪問歯科医師

歯科放射線学会会員

NPO 法人 歯科学研究所インプラント認定医

訪問診療の昔と今

井澤歯科医院
井澤 政紀

私は今から20年ほど前、昼休みの時間を使い、ダンボール箱に治療機材をつめて、徒歩ないしは自転車で行ける範囲で往診を行っておりました。

患者さんも、自院で治療していた方でしたので気軽に往診を致しておりました。

当時の治療といえば、旧義歯の調整がほとんどでした。機材もなく、人の手もなく、たった一人で伺う往診でしたので、それが私にとって手一杯でしたけれど、とても充実して楽しく思っておりました。

しかし、自院の患者さんがほとんどでしたので、徐々に往診の機会がなくなるのは、当然のことでした。

それから十数年後、介護保険制度が始まり、世の中に、訪問診療の必要性が徐々に求められて来ましたが、いざ訪問診療を行おうと思っても、以前のような気軽さでは始めるには、とても、約束事が多く、どこから初めて、どのように対処したらよいか、そのノウハウがまったく分かりませんでした。

そんな時、日本訪問歯科協会を知り、今年初めにサポートを受け、現在なんとか訪問診療を実践することができました。

患者さんやご家族の笑顔がとてもうれしくて、伺う訪問診療の実践をご紹介します。

●略歴 井澤 政紀（いざわ まさき）

- 1978年 3月 城西歯科大学（現・明海大学歯学部） 卒業
- 1978年 4月 柳澤歯科医院 勤務
- 1981年 6月 毎日デンタルオフィス井澤 開設
- 1990年 1月 井澤歯科医院開設 現在に至る

健康学習を生かした訪問歯科診療

ますだ歯科
榊田 康宏

「あー、歯医者さん、待ってたよ！」訪問歯科診療にお伺いした際、第一声にこう言って頂けるほど嬉しいことはございません。

歯の痛みがなくても、入れ歯の調子が良くても、私達が訪問することをこんなに楽しみに待ってくださっていると、期待に答えなければならないといつも思います。

そのためには、従来型の診療ではもの足りない、期待に答えられないとを感じるようになりました。

通常、私達保険医療従事者は患者様や相談者様に接する際、「悪いところがあれば、見つけて治さなくては」という観点から考えがちです。

しかし、訪問歯科診療においては、ご自宅や施設にお伺いする際、「元気で実りある豊かな人生」を送るお手伝いをさせて頂くことが第一だと思います。

そのためには「この方の健康があるのは、どのように過ごしてきたからだろうか」、「この方は今後の人生をどのように生きたいと考えているのだろうか」といった点を一緒に考えることの方が重要だと気づきました。

また、その方の心の奥にひそむ思いを的確に引き出し、本人のやる気を高めるお手伝いをさせて頂くことが大事です。

そんな中で「健康学習」を学び、それを生かした診療スタイルを考え、取り組むようになりました。

医学的健康の枠にとどまらず、その人らしい健康、全人的健康を目指した診療スタイルと私の想いを、まだまだ勉強中ではございますが、ご紹介させていただければと思います。

●略歴 榊田 康宏（ますだ やすひろ）

平成 12 年 3 月 朝日大学歯学部 卒業
平成 13 年 4 月 メガ デンタルオフィス 勤務
平成 14 年 4 月 スマイル歯科クリニック 併勤
平成 16 年 3 月 スマイル歯科クリニック 退職
平成 15 年 4 月 セントラル矯正歯科クリニック 併勤
平成 16 年 11 月 セントラル矯正歯科クリニック 退職
平成 16 年 12 月 メガ デンタルオフィス 退職
平成 17 年 1 月 ますだ歯科 開設 現在に至る

私たちが行っている口腔ケア

宇川歯科
羽山 やよい他

患者さんの“口腔ケア”する、それは患者さんのみならず、介護にかかわる周囲の人にも良い効果をもたらします。例えば食事は、患者さんにとっては、一日のうちで楽しみにしている時間です。しかし、食事を介助する側にとっては、時間がかかり、手間のかかることです。

“むせる・こぼす・飲み込みが悪い”という現象が少しでも改善されれば、食事の時間が変わります。

身体のリハビリは回復期を過ぎると、効果が表れにくいようですが、口腔のリハビリは年数が経ってから始めても、必ず効果が表れるのを私たちは目の当たりにしてきました。

当院では、歯科衛生士が中心となり、往診チーム全体として、摂食嚥下トレーニングに取り組んでおります。今回は、実際に現場で歯科衛生士が取り組んでいることと、携わる際に大切にしていることを、お伝えできたらと思います。

また、プラークコントロールを含む、従来の口腔ケアはもちろんのこと、当院ではエイジングや服薬によって生じるドライマウスにも、アプローチしています。唾液が減少し、口腔内が乾燥することで、話しづらかったり、義歯による歯肉の傷がつきやすくなったり、食事が召し上がりにくくなる方も大勢いらっしゃいます。こうした現象を緩和するために行っていることも、紹介させて頂きます。

●略歴 羽山 やよい (はやま やよい)

1994年－1996年：堺歯科衛生士専門学校

1996年－2008年：筒井歯科 勤務

2008年－現在：医療法人 活生会 筒井歯科医院・宇川歯科 勤務

2005年－現在：ほんだ歯科提携クリニック カウンセラー

学術発表

2006年11月12日 第6回日本訪問歯科医学会（東京）「歯科衛生士が行う摂食・嚥下トレーニングの実際」

2007年6月23日 口鼻臭臨床研究会 第2回学術集会2007（名古屋）「自臭症43例の治療経験」

2007年9月16日 第2回韓国予防歯科学会総会（韓国）「自臭症（自己臭症）に対する診断と治療方法」

2008年9月26日 韓国歯科衛生士学会総会（韓国）

「The Model of Preventive Dentistry by Treatment of Self-recognized Halitosis(Halitophobia)」

2008年11月8日 第8回アジア予防歯科学会（韓国）

「The Model of Preventive Dentistry by Treatment of Self-recognized Halitosis(Halitophobia)」

2009年7月11日 口鼻臭臨床研究会 第4回学術集会2009（福岡）「自臭症60例の治療経験」

障害者施設での訪問歯科診療

キカワ歯科医院
木川 仁志

当院が、訪問歯科診療をはじめて8年目を迎えました。慣れない訪問先にて、診療室との違いに戸惑いながら、試行錯誤をくり返ししながら、当院の訪問診療体系を構築しつつあります。

その訪問先のひとつの障害者施設より、2年前から歯科治療の大半を要請され、対応した患者の総数が65名となりました。一障害者施設での訪問歯科診療に関し分析に値するボリュームになったと考え、受療傾向、全身状態などについて分析を試みました。

この結果より、超高齢者の訪問歯科診療とは異なった特徴があり、それに対応すべく当院の障害者訪問歯科診療の一部を紹介したいと思います。

●略歴 木川 仁志（きかわ ひとし）

1992年	広島大学歯学部卒業
1996年	広島県三原市にて キカワ歯科医院 開院
1998年	日本歯科研究研修協会（納富 哲夫主宰）研修終了
2002年	訪問歯科診療開始
2005年	日本訪問歯科協会 監事
2007年	日本訪問歯科協会 認定医

筋萎縮性側索硬化症患者様に対する訪問歯科診療の取 り組み

医療法人社団エステティックライン
熊本インプラント・矯正センター
パール歯科クリニック宇土 阿川 健太郎

訪問歯科診療を始めて4年目となり、多くの患者様・症例と出会いキュア・ケアを行ってきました。

その中で、特定疾患であるALS（筋萎縮性側索硬化症）の1患者様の訪問歯科診療を行っています。ALSは、日本全国で約7000人の患者数の疾患で、運動ニューロンが障害を受けることにより、全身の筋肉が衰えていき、それに伴い口腔機能も衰えていきます。私どもはこの疾患を持つ患者様のQ.O.Lを可能な限り維持できるように訪問歯科診療を行っています。

今回はその取り組みの一部をご紹介しますと思います。

●略歴 阿川 健太郎（あがわ けんたろう）

平成16年3月 鹿児島大学歯学部 卒業
平成16年4月 鹿児島大学病院 勤務
平成18年4月 医療法人社団エステティックライン
熊本インプラント・矯正センター
パール歯科クリニック 勤務
平成19年4月 パール歯科クリニック 訪問歯科診療部 部長
平成21年11月 パール歯科クリニック宇土 院長

Qアップトレーニングと口腔ケア

ケアパートナー株式会社
ケアパートナー柏 センター長
関 優美

ケアパートナー（株）は、「自立と共生の支援」を経営理念に掲げ、「お客様のA D Lの改善を伴う介護」をテーマに、「Qアップトレーニング」を実践しているデイサービスです。

Qアップとは、Q O L = 生活の質・生命の質・人生の質を向上させるトレーニングです。

お客様のA D Lの改善と健康維持には食事・運動は必要不可欠です。その為には美味しく食事が食べられるお口の健康も当然大事です。

平成16年つくばセンターのオープン当初から、口腔機能向上を意識した取組みを行って参りました。

デイサービスは自宅の延長線上です。センターでの歯磨き・義歯の手入れ、口腔体操をご自宅でも行い、健康を維持できるのがベスト。

年2回の歯科検診と合わせお客様対象の口腔ケア勉強会を定例化し、お口の健康が何故必要なのか？毎日のケアがどのような効果をもたらすのか？お客様自身に実感していただく事で口腔ケアも定着してきました。

ケアパートナーにおけるQアップトレーニングと、口腔ケアの取組みをご紹介します。

●略歴 関 優美（せき ゆみ）

昭和34年 茨城県生まれ

エステローダー（株）日本支社でトラベルコンサルタントとして勤務。

アイビー化粧品（株）美容教育部で教育・研修を担当し、京都事業部設立に伴い京都事業部長就任。約15年間化粧品メーカーで教育・営業管理職として従事。

出産育児を期に平成7年 介護福祉士取得

平成16年 ケアパートナー（株）つくばセンター センター長として入社

平成20年9月 ケアパートナー（株）柏センター センター長として異動

在宅歯科医療と医療連携

東京歯科大学社会歯科学研究室

石井 拓男

平成 20 年代は、後世において在宅歯科医療の転換期となった時代として記憶されることになると思われる。在宅医療は、平成 18 年度に診療報酬の改定により一つの階段を上った。平成 20 年度からは、医療法の改正に伴う新たな医療計画の立案により、医療提供体制が改まり在宅医療のさらなる進展がはかれることとなった。都道府県単位、医療圏単位で医療提供体制の大きな枠組みが新設されるのである。この中に歯科医療も組み込まれ、在宅歯科医療はその重要性をさらに増すこととなる。この変化のキーワードは、医療連携と連携パスである。在宅医療はチームで行うものである。チームの編成は、医師、看護師、薬剤師を中心に行われてきたが、この人達の中で、歯科医師・歯科衛生士の必要性の認識が深まってきた。また、介護職、介護制度との円滑な連携も強く望まれるようになってきた。歯科の在宅診療は、これまでは歯科完結型で実施されてきた感が強い。在宅では、治す治療から支える治療への変換が進められている。歯科医療従事者も、在宅患者を支える柱の一つなることが望まれているのである。

●略歴 石井 拓男 (いしい たくお)

昭和	47 年 2 月	愛知学院大学歯学部助手 (口腔衛生学教室)
	53 年 10 月	愛知学院大学歯学部講師
	63 年 11 月	愛知学院大学歯学部助教授
平成	2 年 2 月	厚生省入省
	3 年 4 月	厚生省保険局医療課課長補佐
	5 年 1 月	厚生省保険局歯科医療管理官
	7 年 6 月	厚生省健康政策局歯科衛生課課長
	11 年 9 月	東京歯科大学社会歯科学研究室教授
	16 年 6 月	東京歯科大学千葉病院長

過去6年間にわたる当院での訪問歯科診療に関する統計

ひぐち歯科医院
樋口 泰史

外来で診ていた患者様が寝たきりになったことがきっかけで訪問診療に携わり6年が経過しました。
これをひとつの節目と考え、これまでの診療内容、対象患者に関する統計をとることにしました。
これを機に私自身のこれまでの訪問診療における反省点、今後への取り組みの考察としたいと思います。

●略歴 樋口 泰史 (ひぐち やすし)

平成 4 年 3 月 明海大学歯学部卒業
平成 4 年 4 月 航空自衛隊入隊
平成 4 年 6 月 自衛隊三沢病院歯科・口腔外科配属
防衛医大麻酔科、救急外来、部隊勤務を経る
平成 14 年 5 月 愛媛県松山市城西歯科勤務
平成 17 年 7 月 ひぐち歯科医院開業

歯科治療における東洋医学の応用

こばやし歯科
小林 敦

訪問治療において口腔乾燥症の患者を目にすることが意外と多いように思われます。通常、人口唾液やリハビリなどで対処することが普通だと思いますが、東洋医学の針を使うことによって、誰でも簡単に効果を高めることができますので、それを発表いたします。

これは、円皮針というものを使いますが、患者様もほとんど痛みを感じないため、安全かつ安心して使うことができます。もう一つは、サプリメントである田七人參というものがありますが、止血効果が高く持ち運びも便利なため、当院では抜歯の時の必需品となっていますのでこれをご紹介します。もともと、田七人參はウコギ科の植物で古くから滋養強壮効果の高い食品として珍重されましたが、生薬としても用いられ、最近では心臓病、肝臓病などの治療薬として注目されています。

ですから、患者様がもし止血の時に飲んでしまっても安心なわけです。当院では、疲れた時にもみんな飲んで飲むようにしています。

● 略歴 小林 敦（こばやし あつし）

1983年3月 岩手医科大学歯学部 卒業
1991年5月 こばやし歯科開設現在に至る

要介護者における口腔ケア後の口腔機能向上の数値的検証

一之瀬歯科医院
一之瀬 真弥

始めは要介護者に口腔ケアを行うと、どれだけ口腔機能向上の効果があるのか？また、当院における口腔ケアプログラムで、どれだけの成果が得られたのかを評価してみようとしたのがきっかけでした。

そこで、過去6年間の訪問歯科診療患者様の口腔諸機能を機能ごとに数値化し、初診時と終了時を比較し検証してみました。

口腔ケア成功に導くためには、患者様との信頼関係の構築と継続が最も大切だと考えます。

皆様の訪問診療及び口腔ケアの一助となれば幸いです。

● 略歴 一之瀬 真弥 (いちのせ まさや)

昭和58年 城西歯科大卒（現明海大）
世田谷区佐藤歯科医院勤務の後
昭和61年 一之瀬歯科医院開設現在に至る

資格及び会員
日本訪問歯科協会会員
日本糖尿病協会歯科医師登録医
埼玉県障害者歯科相談医
埼玉県摂食・嚥下研究会会員